

新郷村

まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成 28 年 3 月

目次

総合戦略の位置づけ	1
(1) 総合戦略の趣旨	1
(2) 新郷村人口ビジョンにおける人口の将来展望	1
(3) 総合戦略の位置づけ	2
(4) 総合戦略の計画期間	2
(5) 総合戦略の効果的な推進	2
基本目標と施策	3
(1) 国の基本目標	3
(2) 新郷村の基本目標	4
(3) 基本目標の実現に向けた主な施策	6
基本目標Ⅰ) 村の自然・歴史資源を活かして”しごと”を創出しよう	7
(1) 基本的な方向性	7
(2) 数値目標	8
(3) 施策と重要業績評価指標(KPI)	9
基本目標Ⅱ) 住みたい、帰りたくなる”むら”でありつづけよう	12
(1) 基本的な方向性	12
(2) 数値目標	13
(3) 施策と重要業績評価指標(KPI)	14
基本目標Ⅲ) 子どもがすくすく”幸せ”家族”の村にしよう	15
(1) 基本的な方向性	15
(2) 数値目標	16
(3) 施策と重要業績評価指標(KPI)	17
基本目標Ⅳ) 次世代に”幸せ”をつないでいこう	19
(1) 基本的な方向性	19
(2) 数値目標	20
(3) 施策と重要業績評価指標(KPI)	21

総合戦略の位置づけ

(1) 総合戦略の趣旨

日本の総人口は、平成 20（2008）年の 1 億 2,808 万人をピークとして減少へと転じ、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の推計によると、2020 年代前半には毎年 60 万人程度、2040 年代頃には毎年 100 万人程度の人口減少が予想され、平成 72（2060）年には 8,674 万人程度まで減少すると推計されています。

そこで、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力のある社会を維持していくことが喫緊の課題となっています。

このため、国は、平成 26 年にまち・ひと・しごと創生法を制定するとともに、国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること、地域社会を担う個性豊かで多様な人材を確保すること、そして地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することを一体的に推進するとして、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

本村における総人口は減少傾向にあり、合わせて少子高齢化が今後も進行していくと予測されています。このような現状をふまえながら、誰もが安心して暮らせる、活力ある村づくりを推進することが課題となっています。

新郷村総合戦略では、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方を踏まえ、新郷村人口ビジョンで提示した将来展望を目指して、人口減少の克服と地方創生に特化した計画を策定し、本村の持続可能な発展に寄与することを目的とします。

(2) 新郷村人口ビジョンにおける人口の将来展望

新郷村人口ビジョンでは、人口減少に対するさまざまな施策や事業を展開することを前提として、合計特殊出生率を平成 32（2020）年に 1.64、平成 52（2040）年に 1.80 へ上昇、平均寿命を平成 52（2040）年に全国平均並みに改善、10～30 代の移動率を 2 割改善という目標を掲げ、以下のように将来人口を推計しました。

【 本村の将来人口 目標値 】

平成 52(2040)年:約 1,580 人 、 平成 72(2060)年:約 1,070 人

(3) 総合戦略の位置づけ

平成 22 年度を初年度とする「第 5 次新郷村総合開発計画」では、将来像を「健康で明るく心豊かな長寿のむらを目指して」と定め、平成 31 年度を目標年度として各施策を推進しています。

本計画は、「第 5 次新郷村総合開発計画」による取り組みの成果等を十分に踏まえながら、人口減少対策に力点を置き、既存の施策や事業を再編するとともに、新たな施策や事業を立案するなどして、人口減少の克服と地方創生に特化した今後の総合戦略をとりまとめたものとなります。

(4) 総合戦略の計画期間

総合戦略は、人口ビジョンに示す人口の将来展望などを踏まえながら、平成 27 (2015) 年度を初年度とする 5 か年の戦略として策定します。

計画期間:平成 27(2015)年度～平成 31(2019)年度

(5) 総合戦略の効果的な推進

総合戦略を実行し、より大きな効果を得るためには、P D C A サイクル^{※1}による定期的な検証と改善体制を確立していくことが必要となります。

本計画においては、基本目標ごとに、5 年後に実現すべき成果を数値目標として設定します。さらに、基本目標で位置づけられる各施策ごとに、効果を客観的に検証できる指標を、重要業績評価指標 (K P I)^{※2}として設定します。

本計画の策定にも関わった「新郷村まち・ひと・しごと創生会議」において施策を推進するとともに、P D C A サイクルによる定期的な検証と改善を行い、評価結果を総合戦略の見直しに反映させるなど、実効性や効果の向上に向けて柔軟な対応を図ります。

※1 P D C A サイクル

PLAN (計画)、DO (実施)、CHECK (評価)、ACTION (改善) の 4 つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。

※2 重要業績評価指標 (K P I)

Key Performance Indicators の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

基本目標と施策

(1) 国の基本目標

日本の人口減少は、今後加速度的に進行し、人口減少による消費・経済力の低下は、日本の経済社会における大きな課題となると考えられています。

このような背景を踏まえ、国が平成26年に閣議決定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、平成72(2060)年に1億人程度の人口を確保することを掲げ、「雇用の創出」・「地方への人の流れ」・「結婚・出産・子育て」・「地域間の連携」に着目した4つの基本目標を策定しています。

【国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の概要】

1. 人口減少と地域経済縮小の克服

- ①「東京一極集中」の是正
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ③地域の特性に即した地域課題の解決

2. まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

3. 基本目標

- ① 地方における安定した雇用を創出する
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

(2) 新郷村の基本目標

本村における基本目標は、国の創生総合戦略と同様に「雇用の創出」・「地方への人の流れ」・「結婚・出産・子育て」・「地域間の連携」の柱に基づいて定めます。基本目標は、豊かな資源、人々に恵まれた村で暮らす「幸せ」を重視し、人生や生きがい・暮らしの充実に向けた次の4つとします。

基本目標Ⅰ) 村の自然・歴史資源を活かして”しごと”を創出しよう

基本目標Ⅱ) 住みたい、帰りたくなる”むら”でありつづけよう

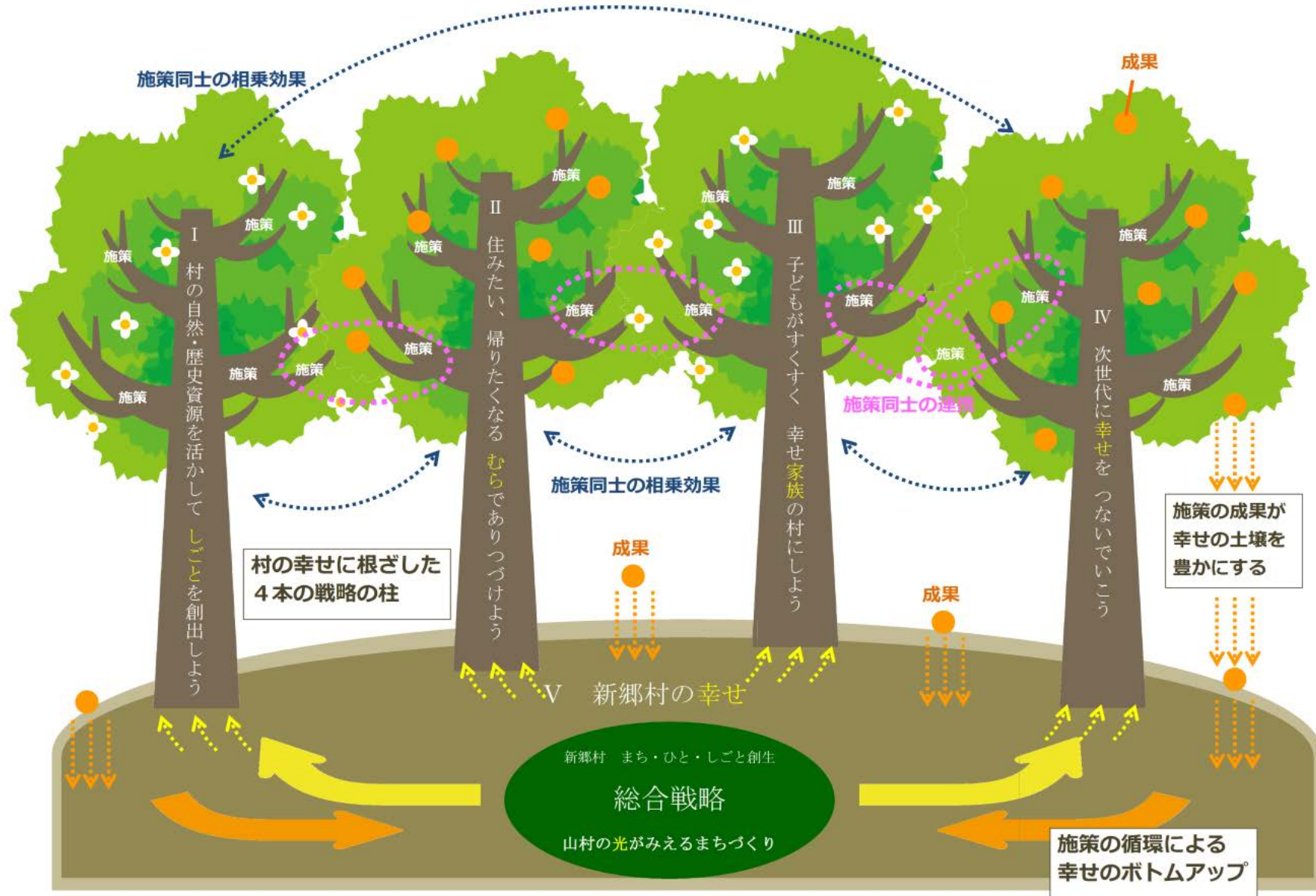
基本目標Ⅲ) 子どもがすくすく 幸せ”家族”の村にしよう

基本目標Ⅳ) 次世代に”幸せ”をつないでいこう

【総合戦略理念イメージ図について】

豊かな自然や農産物に恵まれ、人と人のつながりが光る新郷村で暮らす「幸せ」を、総合戦略をはじめとする取り組みによってさらに大きなものとしていきたいと考えます。施策や事業の実施による効果や、循環の仕組みを、イメージ図として次ページに示します。

4つの基本目標を、4本の幸せの木と例え、村で暮らす「幸せ」の土壌により育てていきます。木には、目標にもとづいた施策が花や実をつけ、施策同士の相乗効果も期待されます。施策により、「暮らしやすい」・「子どもを産みやすい」・「安心して生活できる」等の成果が生まれ、それらがまた土壌へとかえっていき、幸せの木が成長するような循環をあらわしています。



※新郷村 総合戦略理念イメージ図

(3) 基本目標の実現に向けた主な施策

基本目標の実現に向けた具体的な施策は、次のとおりです。

基本目標Ⅰ) 村の自然・歴史資源を活かして”しごと”を創出しよう

- 施策1 森林を活用した木質バイオマスの推進
- 施策2 有機の里づくりによる産業活性化
- 施策3 特産品を活用した農産物のブランド化
- 施策4 地域資源を活かした交流人口の拡大
- 施策5 生活支援プロジェクトの推進

基本目標Ⅱ) 住みたい、帰りたくなる”むら”でありつづけよう

- 施策1 移住・定住の促進
- 施策2 住みやすさの向上
- 施策3 郷土への愛着を育む取り組みの推進
- 施策4 きのこを活かしたコミュニケーションの推進

基本目標Ⅲ) 子どもがすくすく 幸せ”家族”の村にしよう

- 施策1 結婚応援プロジェクトの推進
- 施策2 村ぐるみ子育て応援プロジェクトの推進

基本目標Ⅳ) 次世代に”幸せ”をつないでいこう

- 施策1 あんしんを”つなぐ”交通手段の確保
- 施策2 資源を”つなぐ”新郷スタイルの確立
- 施策3 人と人を”つなぐ”助け合いの交流
- 施策4 健康を”つなぐ”暮らし方の確立
- 施策5 思いやりで”つなぐ”防災対策の充実

基本目標Ⅰ) 村の自然・歴史資源を活かして”しごと”を創出しよう

(1) 基本的な方向性

【現状について】

- 地形と気候を活かし、郷のきみ等に代表される多様な特産品の生産が進められています。
- 有機資源センター新郷を活用し、良質な堆肥を用いて農作物を栽培する有機の里づくりが進められています。
- 木質バイオマスを利用したボイラーの活用、風力発電等、地域新エネルギー導入の取り組みが進められています。
- 木の駅プロジェクト^{※3}の推進により、木質バイオマスの利用促進に加え、村内商店で利用可能な地域振興券による商業活性化の取り組みが進められています。
- 自然滞在型のレクリエーション施設である間木ノ平グリーンパークを活用し、村の環境と資源を活かした体験型の観光を推進しています。

【課題について】

- 青森県「酪農発祥の地」として、農林業、畜産業、酪農業等が営まれてきましたが、近年は高齢化や後継者不足が課題となっています。
- 青森県南唯一の硫黄泉として、「伝説の鷲の湯」と呼ばれる温泉が人々に親しまれていますが、観光、食事、宿泊といった村内における連携が課題となっています。
- 間木ノ平グリーンパーク内の道の駅「しんごう」のさらなる利活用が求められています。道の駅が冬期閉鎖されること等をふまえ、販売者と消費者の両者にとって、より利用しやすい運営形態が求められています（新郷村まち・ひと・しごと創生会議、アンケート、ワークショップより）。

※3 木の駅プロジェクト 間伐材を「木の駅」へ出荷することで、地域通貨で対価が支払われる仕組みのこと。森林整備と地域商店の活性化にとどまらず、地域の自治やコミュニティの再生・強化につながる取り組みとして注目されている。

～ 村民アンケートの声 ～

- 若者の暮らしを支えられる雇用が不足している。村内で暮らしていけるような仕事の創出が求められている。
- 飲むヨーグルトなど、特産品づくりを非常にかんばっているので、もっと全国に向けてアピールしていきたい。
- 村内の商店を元気にし、商店の減少を抑えたい。
- 観光資源を生かし、案内を充実させるなど、PRを推進したい。

～ ワークショップの声 ～

- 村で栽培している野菜の種類が多く、いつでも旬のものが食べられる。
- 郷のきみは売り場もない状態から始まり、今では村を代表する特産品となっている。特産品の加工場などをつくり、村内で雇用を生み出す流れをつくりたい。
- キリストの墓やものづくりなど、観光資源をもっと積極的にPRしていきたい。清掃や差し入れという、訪れた人への「おもてなし」の取り組みは素晴らしい。キリストっぷも大好評。
- 伝統料理をこれからも大切にしていきたい。温泉に来た方へ料理をふるまうなど、村内で観光の流れができればよい。

これらの現状をふまえ、

村の自然・歴史資源を活かして”しごと”を創出するために、

- ・村の豊かな資源を活かして、農林業、畜産や酪農業をより発展させ、基幹産業が元気で活力のある村づくりを推進します。
- ・特産品の開発や販売を推進し、村内に雇用を創出する体制をつくり上げていきます。
- ・キリストの墓や大石神ピラミッドといった観光資源をPRし、もてなしの取り組みを推進することで、交流人口を拡大していきます。

(2) 数値目標

対象項目	ベース値 (平成 26 年度実績)	5 年後の目標値 (平成 31 年度)
将来、農林業、畜産・酪農業に 就きたいと感じる割合 (中学生アンケート)	1 割	3 割
新郷村観光客入込客数	約 15.2 万人	約 16.7 万人

(3) 施策と重要業績評価指標 (KPI)

施策	事業	重要業績評価指標 (KPI)
<p>森林を活用した木質バイオマスの推進</p>	<p>■地域新エネルギー導入促進事業 風力発電事業の誘致を促進し、村内における新エネルギーの活用促進を拡大する。</p>	<p>木質バイオマスを用いた熱導入施設数の増加</p>
	<p>■木質バイオマスによるボイラー事業 木質バイオマス利用推進協議会による年次計画を作成し、取り組みを促進する。</p>	
	<p>■木の駅プロジェクトの推進 これまで廃棄していた林地残材を「木の駅」へ出荷し、木質ボイラーに活用するとともに、地域振興券での買取により村内商店の活性化を推進する。</p>	
	<p>■各施設（新郷温泉館（伝説の鷲の湯）、役場、福祉施設など）への熱導入 新郷温泉館への木質バイオマスによるボイラー導入をモデルに、役場庁舎、農業用ハウス等への活用を推進する。</p>	
<p>有機の里づくりによる産業活性化</p>	<p>■有機資源センター新郷活用促進事業 有機資源センターのドームコンポ改修計画を策定し、良質な堆肥を使用した安全・安心な農作物の生産を促進する。</p>	<p>堆肥を利用した高付加価値特産品の栽培数増加</p>
	<p>■堆肥の活用促進事業 有機資源センター新郷で生産した堆肥を農家へ配布し、「ゆうきのめぐみ」散布車の利用促進、堆肥を使用した高付加価値の農産物の栽培や販売を推進する。</p>	
	<p>■資源循環型の村づくり推進事業 日本一の健康な土づくりを目指し、畜産・耕作農家が連携した資源循環型の体制を推進する。</p>	

施策	事業	重要業績評価指数（KPI）
<p>特産品を活用した農産物のブランド化</p>	<p>■農業後継者育成事業 農業の担い手を育成し、労働力不足を補完する仕組みづくりや新規就農者、起業者の育成を推進する。</p>	<p>農業委員会の各年度目標達成</p>
	<p>■新作物特産品奨励補助事業 村を代表する新作物や特産品の開発、栽培を支援する体制づくりを推進する。</p>	<p>特産品販売額 30%増</p>
	<p>■特産品の六次産業化 甘草（薬草）をはじめとする特産品の栽培技術確立、銀の鴨の飼育から調理、加工販売までを村内でまかなう等、雇用を生み出す体制づくりを推進する。</p>	
	<p>■特産品の生産・販売拡大 直売会、インターネット販売などを活用し、郷のきみをはじめとする特産品の販売機会を拡大する。</p>	
	<p>■新郷村ブランド化プロジェクト 郷のきみ、天日米、自然薯、山ぶどうジュースなど、民間企業等とも連携し、生産、加工、流通、販売体制を確立し、ブランド化を進める。</p>	
	<p>■肉牛黒毛和牛種の産地化 優良な黒毛和牛を生産できるよう、優良繁殖牛の導入支援の推進と放牧場の管理体制充実を促進する。</p>	
<p>■酪農活性化の推進 牧場祭り等における魅力発信を推進し、担い手の育成、草地更新機械の共同利用によるコスト削減、経営改善による所得安定を図る。</p>		

施策	事業	重要業績評価指数（KPI）
<p>地域資源を活かした交流人口の拡大</p>	<p>■道の駅しんごうの活用 地場産品の直売センターを活かし、産業活性化、にぎわいや交流の場として道の駅の利活用を促進する。</p>	<p>道の駅しんごう （間木ノ平グリーンパーク） 年間利用者数 6.2万人→6.8万人</p>
	<p>■木の駅プロジェクトとの連携 道の駅において、木の駅プロジェクトで林地残材と交換した地域振興券の利用が促進されるよう、プロジェクトとのコラボレーションやPRを推進する。</p>	
	<p>■新郷村観光戦略プランの策定 新郷村流の「おもてなし」を考え、観光形態やニーズに対応していくため、キリストの里公園や豊富な湧水を生かした観光戦略プランを策定・活用する。</p>	
<p>生活支援プロジェクトの推進</p>	<p>■高齢者の生活支援事業 除雪や食事に関する支援内容の改革、シルバー人材による洗濯や買い物サポート等、生活支援体制を検討、推進する。</p>	<p>シルバー人材センターの設立</p>
	<p>■生活支援事業に伴う雇用の創出 社会福祉協議会と連携してシルバー人材センターを推進し、生活支援サービスを構築する際の雇用創出を検討する。</p>	

基本目標Ⅱ) 住みたい、帰りたくなる”むら”でありつづけよう

(1) 基本的な方向性

【現状について】

- ・人口の社会移動は、転入者数よりも転出者数が多い「社会減」で推移しています。
- ・10代～20代の転出が顕著で、特に25～29歳の女性の転出が多くなっています。理由としては、結婚を機に村外へ転出するケースが多いためと考えられます。
- ・定住促進住宅事業により、村外からの移住者を積極的に呼び込んでいます。
- ・東京の福祉施設との交流が積極的に進められており、広く県外の方に村を知ってもらうきっかけづくりに取り組んでいます。
- ・きのこの里づくり事業を推進し、シイタケの栽培を通じた高齢者の交流の場づくり、いつまでも元気に暮らすことができる健康づくりに取り組んでいます。

【課題について】

- ・このまま社会減の状態が継続すれば、本村の人口は減少し続けることが予想されます。
- ・本村には高校がなく、中学校卒業後の進学先はほとんどが村外となっています。通学の不便さや下宿の難しさもあり、子どもの進学を機に家族ごと転出するパターンが多くみられ、子をもつ世帯の定住を促進・転出を抑制する取り組みが必要とされています。
- ・一般世帯の定住意向（本村にこれからも住みたいかどうか）が86%だったのに対し、中学生の定住意向は39%となり、若い世代が将来安心して住みたいと思えるような環境づくりが求められています（アンケートより）。

～ 村民アンケートの声 ～

- 定住促進住宅の推進により、人口が増えると嬉しいと感じる。
- 村外からの移住者を対象とした取り組みだけではなく、村内の若い世代が入居できるような住宅の支援が必要。ずっと村に暮らしている住民が子どもを産み育て、将来も住み続けるための取り組みを考えなければならない。
- 空き家を活用し、住宅を増やすような取り組みができないか。自分でも空き家を活用してみたいと考えている。

～ ワークショップの声 ～

- 定住促進住宅の取り組みは、非常によいと感じる。村に移住してくる人が増えていってほしい。村外の人から見て、新郷村がどのように感じられるか？移住したいと思う決め手は何か？について意見を聞く機会が必要だと思う。
- 新郷村の村民として誇りをもって暮らすことで、村外の方からも、暮らしてみたい・魅力的な場所だと思ってもらえるのではないかな。
- きのこの里づくりを今後も推進していきたい。グループでの作業を通じた交流は大きな楽しみであり、高齢者にとっても生きがいとなる。

これらの現状をふまえ、

住みたい、帰りたくなる”むら”でありつづけるために、

- ・村で暮らしたいと考える人の希望が叶えられるよう、住宅の確保に向けた取り組みを推進します。
- ・自然や特産品、食べ物といった資源に恵まれた、住みよい村づくりを進めます。
- ・積極的に交流の場づくりに取り組み、多くの人々が村へ愛着をもち、「ずっと暮らしていきたい、また戻ってきたい」と感じられる村づくりを推進します。

(2) 数値目標

対象項目	ベース値 (平成 26 年度実績)	5 年後の目標 (平成 31 年度)
定住促進住宅の利用	—	全戸入居を維持
村への定住を希望する割合 (一般世帯アンケート)	9 割	維持
村への定住を希望する割合 (中学生アンケート)	4 割	6 割

(3) 施策と重要業績評価指標 (KPI)

施策	事業	重要業績評価指標 (KPI)
移住・定住の促進	■定住促進住宅の拡大・継続 転入者だけでなく、村の住民（特に若い人・村内で結婚する人）が入居できる住宅の整備、仕組みづくりを推進する。	大久保住宅 6 棟 全戸入居
	■”新郷ぐらし”促進事業 他市町村へ通勤しながらも、「暮らすところは新郷村」という新郷ぐらしのスタイルを支援し、村の豊かな農産物や自然、人との関わりを感じられる村づくりを推進する。	定住促進住宅 10 棟 全戸入居
住みやすさの向上	■八戸圏域定住自立圏の形成 魅力あふれる定住自立圏を形成するため、近隣市町村との連携を強め、村づくりを推進する。	
郷土への愛着を育む取り組みの推進	■郷土芸能の継承 地域に伝わる郷土芸能を子どもたちに伝え、地域への想いを深める機会づくりを促進する。	中学生の定住意向向上 (アンケート)
	■村の歴史・風致学習推進事業 小学校や中学校で、村の歴史を地域のみなさんから学ぶ勉強会などを開催する。	
きのこを活かしたコミュニケーションの推進	■きのこの里づくり推進事業 高齢者の生きがいづくりや地域活性化につながる、きのこを活用した取り組みを推進する。	活動団体数の維持
	■きのこコンテスト (きのコン) の開催 住民同士で、収穫したきのこの品評会や試食会を行うコンテストを開催する。	

基本目標Ⅲ) 子どもがすくすく 幸せ”家族”の村にしよう

(1) 基本的な方向性

【現状について】

- ・合計特殊出生率は年々低下しており、平成 24 (2012) 年の値は 1.39 となっています。
- ・こども商品券、学校給食無料化など、子育て世代への様々な支援事業が行われています。
中学三年生を対象とした無料の村営学習塾も開設され、地域をあげた、村ならではのきめ細やかな支援が行われています。
- ・子育て世帯の理想とする子どもの数 (2.9 人) が、実際に予定する子どもの数 (2.5 人) よりも多くなっており、子育て世帯への支援事業を推進することにより出生数が増加する可能性があります (アンケートより)。

【課題について】

- ・出生率の低下に伴い、平成 24 (2012) 年の出生数は 10 人を割り込み、少子化が進行していることが課題となっています。
- ・子育てに関する悩みとして、「経済的負担」と「病院などの施設が近くにない」という回答が最も多く、子育て世帯への支援による改善が求められています (アンケートより)。
- ・独身者が多く、出会いや結婚の機会が少なくなっていることが課題となっています。

～ 村民アンケートの声 ～

- 村内で子どもを見かけることが少なく、少子化を強く実感する。子育て中の方、働きながら育児をする方等への支援が必要である。
- 給食無料化等の支援事業を活用しているが、大変助かっている。
- 子どもが成長して、将来やりたいことや部活など、十分に叶えてあげられるかどうか不安を感じる。
- 村をあげて、結婚につながるような出会いの場づくり、きっかけづくりができないか。結婚が難しければ、子どももなかなか生まれえないと思う。

～ ワークショップの声 ～

- 村の環境がよく、子どもをのびのび育てられる。村の行事に参加する機会も多く、結婚して転入してきた人もすぐになじむことができる。
- 日曜日にも利用できる託児所があれば、仕事の幅が広がり、働きながら子育てがしやすくなると思う。
- 農業従事者に限らず、最近は出会いの場が少なくなっている。40～50代の独身者も増えていると感じる。
- メンバーを集め、お見合い大作戦の企画に応募してはどうか。村全体で取り組み、盛り上げていきたい。

これらの現状をふまえ、
子どもがすくすく「幸せ」家族”の村にするために、

- ・働きながらの子育て等、近年の子育て世代を取り巻く環境に柔軟に対応し、きめ細やかな支援体制づくりを推進していきます。
- ・希望どおりに子どもを産み育てやすい村づくりを目指し、住まい、生活、教育等、切れ目のない支援を充実させていきます。
- ・出会いの機会を創出し、村全体をあげて、結婚しやすい環境づくりを推進します。

(2) 数値目標

対象項目	ベース値 (平成 26 年度)	5 年後の目標 (平成 31 年度)
合計特殊出生率	1.39 (平成 24 年度)	1.62
地域全体で子育てを していると実感する割合 (アンケート)	4 割	6 割

(3) 施策と重要業績評価指標 (KPI)

施策	事業	重要業績評価指標 (KPI)
結婚応援プロジェクトの推進	■結婚の機会創出・結婚しやすい環境づくり促進事業 結婚に対する意識改革を図り、結婚の希望を叶えられる環境づくりを推進する。	結婚に関するセミナー開催 0回→2回/年
	■お見合いツアーの企画実施 村の魅力をPRしながら、出会いの場づくりを行い、結婚の機会となる企画・取り組みを推進する。	
	■村委託仲人制導入 村の仲人さんとして、結婚を望む方のサポートとなる制度の導入を促進する。	
	■新築住宅の補助促進 結婚し、村内に住宅を新築・居住する場合の補助制度を充実させる。	
	■多世代同居セミナー開催 多世代同居の特性を活かし、より暮らしやすい環境づくりのアドバイスを受ける機会を創出する。	

施策	事業	重要業績評価指数（KPI）
<p>村ぐるみ 子育て応援 プロジェクト の推進</p>	<p>■延長保育、一時預かり事業の継続 延長保育や一時預かりの取り組みを継続し、様々な生活スタイルでの子育てが可能となるような支援を推進する。</p>	<p>村の子育て支援 に対する満足度 （アンケート） 3割→6割</p>
	<p>■地域子育て支援拠点事業の継続 地域の身近な場所で、乳幼児をもつ世帯の交流や育児相談、情報提供を促進する。</p>	
	<p>■放課後子育て支援事業の継続 放課後子育て支援を継続し、仕事をしながら子育てをする世帯のサポートを促進する。</p>	
	<p>■学校給食無料化の継続 新郷村の農作物や特産品を利用した学校給食の無料化を継続し、子育て世帯のサポート、生徒が村の作物に関心をもつ機会の創出に取り組む。</p>	
	<p>■学習塾などの学習支援の継続・推進 中学三年生を対象とした村営の学習塾を継続し、生徒の学力向上と、村をあげて子どもを支える仕組みづくりを推進する。</p>	
	<p>■中学3年まで医療費一部助成の継続 子どもの医療費一部助成の取り組みを継続し、安心して暮らせる村づくりを促進する。</p>	
	<p>■こども商品券の交付継続 村内で利用できる新郷村商店活性化こども商品券の交付を継続し、子育て世帯の支援となる取り組みを推進する。</p>	<p>商品券換金率 98.3%→100%</p>

基本目標Ⅳ) 次世代に” 幸せ ”をつないでいこう

(1) 基本的な方向性

【現状について】

- ・安全、安心な移動手段を確保するため、村営無料バス「みずばしょう号」が運行されています。車の運転が難しい方の助けとなるよう、南部バスとの接続も考慮し、多くの人が利用しやすい移動手段となるよう取り組んでいます。
- ・村の美しい自然環境を守り、次世代を担う子どもたちへ引き継いでいくためにも、循環型の社会を目指し、ごみ減量行動計画を定めて取り組みを行っています。
- ・新郷ふるさとまつり等、様々な催しを行い、村内外における人と人の交流を図っています。
- ・チャレンジデー^{※5}、村民運動会といった村をあげて行うスポーツイベントが開催されており、健康づくりの取り組みを推進しています。チャレンジデーではこれまでに複数の賞を受賞し、日本一に輝いた実績をもっています。

【課題について】

- ・高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増えることが予想されます。高齢者が安心して暮らせるよう、交通手段や雪かき対策等、生活の支援が求められています。

※5 チャレンジデー

毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている、住民参加型のスポーツイベント。人口規模がほぼ同じ自治体同士が、午前0時から午後9時までの間に、15分間以上継続して何らかの運動やスポーツをした住民の「参加率(%)」を競い合う。

～ 村民アンケートの声 ～

- 地域みんながあいさつや声かけをしてくれ、とてもあたたかい。これからもずっと、村全体で協力し合っていきたいと思う。
- 年をとり、これからどのように暮らしていけるのかという不安を感じる。集落内外で助け合い、お互いのできることを行っていくことが大切。
- 小さな村だが、他市町村からよく頑張っていると声をかけてもらい、嬉しく感じる。村のPR活動も評価されており、今後も続けていきたい。
- 村内フリーマーケットや気軽な市などの場を設け、交流の機会を増やすことができたらよい。
- 「何かやりたい」と思っている高齢者は多い。集まって、楽しみながら仕事ができれば大変よいと思う。

～ ワークショップの声 ～

- 旬のおいしい野菜が食べられる、毎日の「普通の暮らし」そのものが幸せだと感じている。
- 昔からの伝統料理を孫に伝え、喜んでもらえることが幸せである。そのような場、機会を増やしていきたい。
- 災害も少ない村で、穏やかに暮らせることが幸せだと感じる。
- 村内のつながりの強さを外へも広げて、むら・まち単位の交流ができればさらによいと思う。

これらの現状をふまえ、
次世代に”幸せ”をつないでいくために、

- ・交通手段の確保や雪対策を充実させ、誰もが安心して生活でき、年を重ねても健やかに暮らすための取り組みを推進します。
- ・新郷村で暮らす心地よさ、豊かさを見つめ直し、人と人のつながりと助け合いをさらに深めていける村づくりを推進します。
- ・誰もが村で暮らす幸せを実感でき、その幸せを子へ、孫へ伝えていける村づくりに取り組みます。

(2) 数値目標

対象項目	ベース値 (平成 26 年度)	5 年後の目標 (平成 31 年度)
村営無料バス（みずばしょう号） 一日平均乗車人数	39.3 人	40 人程度を維持
村の暮らしについて、 「幸せな体験がよくある・時々ある」 と感じる割合（一般世帯アンケート）	6 割	8 割
村の暮らしについて、 「幸せな体験がよくある・時々ある」 と感じる割合（中学生アンケート）	7 割	9 割

(3) 施策と重要業績評価指標 (KPI)

施策	事業	重要業績評価指標 (KPI)
あんしんを”つなぐ” 交通手段の確保	■村営無料バス (みずばしょう号) の運行 村営無料バスの運行を継続し、安全な移動手段を確保する。	村営無料バスの 運行数の維持
資源を”つなぐ” 新郷スタイル の確立	■新郷村ごみ減量行動計画の継続・推進 資源の循環利用を促進して、家庭ごみ有料化を阻止し、美しく暮らしやすい村づくりを進めていく。 ■資源循環型のくらしモデル化事業 木質バイオマス、有機資源をはじめとした「資源循環型」の暮らしを確立・PRし、他市町村のモデルとなるような村づくりを推進する。	一日一人当たり ごみ排出量の減量
人と人を”つなぐ” 助け合いの交流	■催し開催、集落活性化の継続 村内の催し開催により、人と人とのつながりを強め、連携や助け合いの体制づくりを推進する。	催し開催数 の維持
健康を”つなぐ” 暮らし方の確立	■チャレンジデー、村民運動会による健康増進の継続 村民が一体となって取り組めるスポーツイベントを継続し、健康で活気のある村づくりを推進する。 ■保健師による健康講習会の実施 自分の健康は自分で守る、健やかな暮らしのための講習会を開催する。	チャレンジデー 村内参加率 60%→90%
思いやりで”つなぐ” 防災対策の充実	■新郷村地域見守り隊の推進 生活に根ざした見守り活動を通して、安心・安全に暮らせる村づくりを推進する。 ■雪の日マナー日本一の村推進事業 雪対策の支援を充実させ、共助による除雪活動等について検討会議を開催し、関係機関との連携強化を推進する。	協力事業者数 18程度を維持 雪対策会議の開催 2回/年

